

豊島区リノベーションまちづくり構想案に対する意見（水村委員）

構想案ですが、これまでの行政のものと比較するとわかりやすくとても良いと思います。

その上で、ご意見です。

1. 子ども版の構想案の作成は？

こうしたプロセスは普及啓発が大切だと思います。将来の豊島区を担う子ども達にもその内容を知らせることができるよう、子ども版豊島区リノベーションまちづくり構想もあると良いと思いました。どこかの学校で、総合学習などで作ってもらっても良いように思います。

2. アウトカム値は掲載しないのでしょうか？

必ずしも、こうした数値を乗せることが良いようには思いませんので、皆さんでご議論いただけると良いと思います。ただ、街の変化を把握する上ではとても重要であるとも思います。

例えば、中期的な期間ごとの

- ・ 出生率の推移
- ・ 世帯構成員の推移
- ・ 子育てに資する住宅ストック量の推移
- ・ 保育施設や小学校の数（あるいは在籍児童数）の推移

などこれらの量の増加をある程度計画しておくことも、効果的なようにも思います。

3. 高齢社会への対応に関する表現

あれもこれも目指すとぶれますので、基本的には「子どもの未来」に重点を当てた構想案でよいと思います。しかし、超高齢化の状況はあまりにも深刻です。大きく項目立てする必要はありませんが、そこここに、もう少し高齢社会への対応・効果ということを匂わせても良いのではないかと思います。そのあたり、帰りましたらお手伝いしても良いと思います。

豊島区リノベーションまちづくり構想案に対する意見（保井委員）

基本的には、大賛成であり、絶対に修正をお願いしたい点はありません。これまで行政で、こんなにファミリー当事者目線で、具体的な内容のプランを見たことはありません。ぜひ豊島区の公式計画として、実践を発展させていただきたいと、力強くエールを送ります！！

その上で、2点、マイナーコメントですが、させてください。絶対修正してほしいわけではありませんので、全体のバランスのなかで判断していただければと思います。

1点目。おそらく、これまで多くの人がコメントし、直前には区からの直しも入り、しかも、委員会で出た多様な意見を反映してくださっているからだと思うのですが、なんとなく、言葉がスムーズに流れていかない点があるように思います。7ページ上部のこれまでの子育て・子育て支援策の改善に様々な施策を掛け合わせる、のところ。左がこれまでの施策の改善、右が様々な施策という理解でよいでしょうか？この右の記述が8ページなどにつながっていくのだと思いますので、大事な部分ではないかと思うのですが、この部分が、後とうまくつながってこない印象をもちます。ここに、単に「様々な“施策”」とだけ書くのではなく、例えば、「様々な“子育て・子育て支援のリノベーション施策”・・・」など施策名をつけてはどうでしょうか？すると、これが住み続けられる環境づくりの施策にもつながり（8ページ）、その後の家守事業にもつながっていくのかなと読めます。私の勘違いであれば、どうぞスルーしてください。

2点目です。8.暮らしづくりの担い手以降になると、空き家・空き地のリノベーションに重点がおかれ（それ自体は素晴らしいことなのですが）、せつかく、前節で取り上げられた公共施設・空間の見直しが弱くなる印象を受けます。「暮らしづくりの担い手」の図では、豊島区は政策をつくり、場を設定することが役割のように読めますが、区も公共施設や空間のオーナーであり、その理解や取組み姿勢がないと、エリアマネジメントは進みませんので。例えば、この図の区のところにも、今ある「戦略的・具体的な都市政策」の下に、幾つかのニーズを記してはいかがでしょうか？例えばですが、前段を受けて以下のようなものなど。

- ・子ども中心の支え合いコミュニティづくり
- ・住み続けられるまちづくり
- ・公共空間、公共施設の効果的・効率的活用